

【小学校の部】最優秀賞（大分県教育の日推進会議会長賞）

未来へつなぐ豊後大野の宝

豊後大野市立犬飼小学校 6年
釘宮 里帆



みなさん、豊後大野といえば何を思い浮かべますか。

とうとうと流れる大野川、ゆうそうな原尻の滝、たくさんの石橋、しいたけやピーマンなどのおいしい野菜でしょうか。

「豊後大野といえば何もない、いなか。」

実は、ついこの間まで私はこう思っていたのです。歩いていける場所にお店や公園はなく、遊ぶ場所がないと感じていたからです。

そんな私を変えてくれたのは、小学校で学んでいるジオパーク学習でした。ジオパーク学習では、地元の豊かな自然や文化を学習しています。近所には約1億年前の地層があることや参勤交代の道があることを知り、驚きました。また、豊後大野は「大分の野菜畑」と呼ばれ、ピーマンなどの野菜作りが盛んに行われているそうです。学習する中で、私たちがいつも見ている当たり前の風景がとても貴重で、素晴らしいことを知りました。

ジオパーク学習と出会えたことで、私はふるさと豊後大野が大好きになりました。そんな私のえがく町の未来は「遊びにきてくれたお客さんと地元の人がいっしょになってジオパークを楽しみ、にぎやかな笑い声と笑顔があふれる豊後大野」です。

しかし、問題があります。それは、豊後大野市は少子高齢化が急げきに進んでいることです。今の人口は約33,000人ですが、あと20年後は約20,000人に減少し、しかもその半数が65歳以上の高齢者になると予想されています。

これからもずっと、豊後大野に住む人も来る人も笑顔でいれたらいいなと思っています。そのために、私たちは何ができるのでしょうか。自然や文化という豊後大野の宝をもっともっとPRしたらどうか。豊後大野の良さをたくさんの人に知ってもらうことが第一歩ではないかと考えました。

そこで今、犬飼小学校では「姫島小学校とのジオ交流」に取り組んでいます。7月には姫島小学校の6年生がリモートで姫島の宝を紹介してくれました。観音崎の黒曜石やナウマンゾウの化石、車えびのおいしさについて説明してくれたので、私はますます姫島へ行ってみたくなりました。

逆に、11月にはいよいよ姫島小学校の友だちが実際に豊後大野へ来ます。その時は、与謝野晶子が訪れた犬飼石仏や原尻の滝など、自慢のジオサイトや豊後大野の良さをたくさん紹介するつもりです。もちろん、豊後牛やしいたけ、じり焼きなど、豊後大野の美味しいものをお腹いっぱい食べてほしいです。そして、家族がいっしょにまた来てくれるとうれしいです。

豊後大野の未来の町づくりのキーワードはジオパーク。これからも、ジオのすばらしさを知ってもらい取り組みにどんどんチャレンジしたいと思っています。

みなさん、豊後大野で待ってるよ！